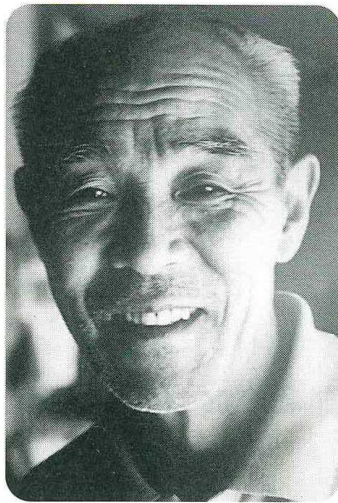


高山の文化を高めた人々 48

神輿と社に匠の技
白木 源蔵
田中 彰



白木 源蔵氏

白木源蔵さんは東京の「宮窓」という有名な御輿製造所で修業し、高山に帰郷して屋台や神棚、秋葉さまの修理・製作を手掛けた腕のいい宮士です。私は屋台修理の時に何回もお会いしましたが、透きとおるような目をした誠実な大工さんでした。まじめ一本という感じの職人で、建造の決まりをわきまえた知見により、細工の部材、部所を見る目には厳しいものが感じられました。

白木さんは大正二年五月二

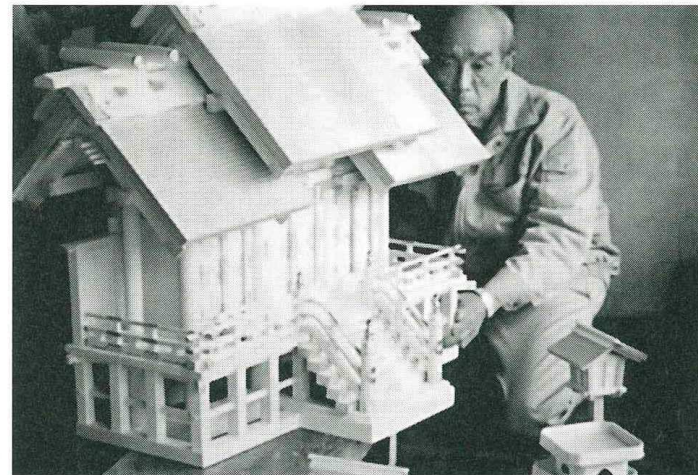
十七日、高山市吹屋町の「武満長屋」で生まれ、学校時代から工芸など彫刻が得意でした。昭和三年、高山市本町の一位細工師・田中松祐斉に弟子入りし、木工芸の修行を始め、飛騨一之宮水無神社献納筋を謹製しました。

十五歳の時に上京し、神田区鍛冶町の「宮窓」で神輿や神棚の製作に励み、腕を上げました。浅草観音寺の五尺灯籠十二基、神田の神輿、東京大学の奉安殿、正田家大連神社、造幣局金神社本殿など、後世に残る仕事をしています。

また、社内で良き伴侶とめぐりあい結婚、一男一女をもうけました。しかし、上京十二年目にして応召され岐阜歩兵六十八連隊に入隊、その時、長男は一歳（源蔵の後を継ぎ、宮士になる良典）でした。東京は空襲が厳しくなり、親子三人は母の実家がある神奈川県に疎開しました。

源蔵は昭和二十一年に復員し、家族で高山へ帰郷、宮大

工の仕事をし
たかったの
ですが、マッ
カー指令の
神
社
崇
拝
禁
止
に
よ
り、
や
む
な
く、
建
具
業
を
始
め
ま
し
た。



完成した神棚を見る源蔵氏

神社崇拝禁止指令が解除されると、建具業を長男の良典にまかせ、若い時から情熱を燃やし続けていた宮大工の道に戻り、秋葉様の社殿修理や神棚、神輿の新造に力を入れました。

また、高山の屋台修理に東京で培った技術と腕を発揮し、仙人台や宝珠台などを修理しています。

昭和五十六年、屋台修理職人集団「高山・祭屋台保存技術協同組合」が組織され、源蔵も組合員になって恵比寿台、三番叟のカラクリなどを修理しました。

さらには、全国の山車製作も手掛け、成田山新勝寺の山車「倭タケル」、東京の江戸東

京博物館に展示されている山車の新調工事に加わって活躍しました。

NHKテレビに出演し、宮士として芸術に近い技能が紹介されました。そこまで到達するには、機械で指を二本切断してしまったり、マラリヤの後遺症で手指関節が動きにくくなってしまうなど、さまざまな困難を乗り越えての卓越技能です。

多くの技能表彰を受け、高山市展審査委員、民生委員を長く務め、民生委員では自治功労章を受章されています。

長男の良典氏に聞いた話ですが、父から仕事は直接習わず、仕事場に父がいなくなつてから仕事の状況を見て学んだとのこと。また、めだたの唄い方を「すだれが風になびいて揺れている情景を思い浮かべて唄え」と伝授してくれたとのこと。

まじめ、実直な宮士一筋の性格で、趣味は謡曲、酒は毎晩二合ほどを嗜みました。平成十一年、八十五歳で天寿を全うしました。